

●詩篇 8 篇はメシア詩篇です。ヘブル人への手紙 2 章にも、それが引用されていますので、そこではどのように詩篇 8 篇が引用されて用いられているかを、チェックしておく必要があります。

【新改訳改訂第 3 版】ヘブル人への手紙 2 章 5～9a

- 5 神は、私たちがいま話している後の世を、御使いたちに従わせることはなさらなかったのです。
- 6 むしろ、ある個所で、ある人がこうあかしています。「人間が何者だというので、これをみこころに留められるのでしょう。人の子が何者だというので、これを顧みられるのでしょう。」
- 7 あなたは、彼を、御使い(詩篇の原文では「エローヒーーム」=神)よりも、しばらくの間、低いものとし、彼に栄光と誉れの冠を与え、
- 8 万物をその足の下に従わせられました。」 万物を彼に従わせたと、神は、彼に従わないものを何一つ残されなかったのです。それなのに、今でもなお、私たちはすべてのものが人間に従わせられているのを見てはいません。
- 9 ただ、御使いよりも、しばらくの間、低くされた方であるイエスのことは見えています。

●5 節に「神は、私たちがいま話している後の世を、御使いたちに従わせることはなさらなかったのです。」とあります。「後の世」のギリシア語は、「やがて来ようとしている」という意味の動詞「メッロー」(μέλλω)の分詞で、将来に現わされる救いの約束です。その約束とは御子がすべてのものを従わせるというものです。ちなみに、この「後の世」はメシア的王国(千年王国)を表わすことばです。そのことを説明するために、著者は詩篇 8 篇を引用しています。詩篇 8 篇での「人の子」とは、イエスのことであり、「第二の人」「最後のアダム」のことが預言されているのです。メシア王国における統治権を、神は御使いには与えず、御子に与えるのですが、そこには四つのことが預言されています。詩篇 8 篇 5～6 節を引用してみましょう。

【新改訳改訂第 3 版】詩篇 8 篇 5～6 節

- 8:5 あなたは、人を、神よりいくらか劣るものとし、これに栄光と誉れの冠をかぶらせました。
8:6 あなたの御手の多くのわざを人に治めさせ、万物を彼の足の下に置かれました。

- ①「**神よりいくらか劣るものとし**」(ヘブル人への手紙では「**しばらくの間、低くされた**」)
ここは主イエスの受肉から十字架に至るまでの 33 年間のすべてが含まれています。
- ②「**栄光と誉れの冠をかぶらせました。**」(ヘブル人への手紙では「**栄光と誉れの冠を与え**」)
ここは復活と昇天、御父の右の座の着座を意味しています。
- ③「**あなたの御手の多くのわざを治めさせ**」(ヘブル人への手紙ではこの部分を省略し④に含ませています。)
ここは主が地上再臨され、王なるメシアとして即位され、千年間、支配されることを意味しています。
- ④「**万物をその足の下に置かれました。**」(ヘブル人への手紙では「**万物をその足の下に従わせられました。**」)
ここも、主が地上で王として即位され、千年間、支配されることを意味しています。千年の後には、地上の支配権は神である父に渡されます(I コリント 15:24～28)。